

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 62-074423

(43)Date of publication of application : 06.04.1987

(51)Int.Cl.

B01D 39/14

B01D 53/34

(21)Application number : 60-215940

(71)Applicant : JAPAN VILENE CO LTD

(22)Date of filing : 27.09.1985

(72)Inventor : NAKAO ETSURO

TAMURA TADASHI

NAKAMURA YOSHIYUKI

(54) POLYOLEFINIC CHARGED NONWOVEN FABRIC

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain an air filter thinner than a laminated charged nonwoven fabric and having reduced air passing resistance, by adhering a deodorant and a control agent to a polyolefinic charged nonwoven fabric.

CONSTITUTION: A nonwoven fabric containing at least 40% by wt. of a total fiber of a polyolefinic fiber is used. A deodorant or control agent is adhered to the surface of the nonwoven fabric or only the specific layer thereof such as the intermediate layer or both front and back layers thereof. After this treatment, the nonwoven fabric is dried and subjected to charging treatment. As the deodorant, a natural vegetable deodorant or a reactive deodorant such as a ferric ion adsorbent, polyhydric phenol or a phthalocyanine compound is used. As the control agent, a fungicide or a sterilizing agent is used and an organohalogen or hydrochloride compound is designated. The adhesion amount of the deodorant or the control agent is pref. 1% or more by wt. of the nonwoven fabric.

対応なし、英抄

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-74423

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和62年(1987)4月6日

B 01 D 39/14

E-8314-4D

G-8314-4D

53/34

1 1 6

B-8014-4D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 ポリオレフィン系帯電不織布

⑯ 特 願 昭60-215940

⑰ 出 願 昭60(1985)9月27日

⑱ 発 明 者 中 尾 悦 郎 守山市播磨田町1430-3
 ⑲ 発 明 者 田 村 忠 滋賀県蒲生郡竜王町大字小口1139-142
 ⑳ 発 明 者 中 村 善 幸 近江八幡市加茂町2703
 ㉑ 出 願 人 日本バイリーン株式会社 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
 ㉒ 代 理 人 弁理士 朝日奈 宗太 外1名

昭和 62 年 4 月 6 日

効果、防虫効果または殺虫効果を併せもつポリ
オレフィン系帯電不織布に関する。

1 発明の名称

ポリオレフィン系帯電不織布

〔従来の技術〕

2 特許請求の範囲

- 1 脱臭剤および／または防除剤が部分的に付着されてなるポリオレフィン系帯電不織布。
- 2 全構成繊維の少なくとも40重量%がポリオレフィン系繊維である特許請求の範囲第1項記載のポリオレフィン系帯電不織布。
- 3 防除剤が防カビ剤、防菌剤、殺菌剤、防虫剤または殺虫剤である特許請求の範囲第1項記載のポリオレフィン系帯電不織布。

合成樹脂繊維の不織布を帯電化させたものは集塵用のエアフィルターなどとして用いられている。この帯電不織布の集塵機能には、繊維腐による通常のメカニカルな濾過機能と帯電化で生じた静電気による捕集機能とがあり、メカニカル濾過により主として比較的大きな塵芥が、静電気により主として微細な塵芥が捕集される。このように帯電不織布は捕集可能な塵芥の粒径の幅を広げることができると共に集塵効率を高めることができるほか、圧力損失が大きく低減され、長期間集塵作用を持続することができるため、すぐれたエアフィルターとして注目されている。

3 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、ポリオレフィン系帯電不織布に関する。

さらに詳しくは防カビ効果、防菌効果、殺菌

このような帯電不織布の製造に用いられる合成繊維としては、ポリオレフィン系、ポリエステル系、塩化ビニル系、塩化ビニリデン系、ポリクラーラル系などの繊維などが用いられている。

また、長期間使用したばあい、不織布は空気中の水分を吸収し、その表面または内部でカビなどが発生することがあり、また空気中に浮遊するカビや菌類は喘息などの病気の原因となるが、これらに対する殺菌性、捕捉性は通常のフィルターには存在せず、かえって、菌類を拡散したり、再飛散することがある。

上記のような繊維からなる帯電不織布自体にさらに脱臭効果あるいは防カビ効果、防菌効果、殺菌効果、防虫効果あるいは殺虫効果などの防除効果を保持させたものについて、従来から種々検討がなされているが、帯電不織布に脱臭剤あるいは防除剤を付着させたばあい、帯電されるべき繊維表面が脱臭剤などに覆われるため該不織布の帯電化が困難であると考えられており、その実用化はなされていない。

[発明が解決しようとする問題点]

そこで本発明者らは、従来の帯電不織布のかかる問題点を解決するべく鋭意研究を怠めなところ、部分的に脱臭剤などを付着したポリオレ

フィンを有するものをいう。

部分的に脱臭剤などを付着した不織布は、その付着量が不織布全体にわたって付着したものと同一であっても、非付着部分の帯電効果が大きいので、集塵効果は優れている。

脱臭剤などの付着方法としては、不織布の製造時に部分的に繊維に脱臭剤などを付着させる方法、製造された不織布に部分的に繊維に脱臭剤などを塗布、含浸、浸漬、吹付けなどによって付着させる方法などがあげられるが、これらのいずれの方法も採用できる。

たとえば不織布全体の特定部分に付着させるには、塗布法が好ましく、高粘度の脱臭剤溶液をハケ、ローラーなどにより塗布すればよい。なお、スクリーン印刷法などを用いれば種々の形状の付着面を形成することができる。

また不織布全体（厚さ方向も含む）に点状に脱臭剤などを付着させるには、スプレー法がとくに好ましい。吹き付け液は水分散系のものが好ましい。

フィン系不織布を用いたばあい、すぐれた脱臭効果および集塵効率を有するという事実は見出し、本発明を完成するに至った。

[問題点を解決するための手段]

本発明は脱臭剤および／または防除剤が部分的に付着されてなるポリオレフィン系帯電不織布に関する。

[作用および実施例]

本発明のポリオレフィン系帯電不織布は、静電気による高い捕集効果を有し、捕集された菌類や臭気粒子に対して脱臭効果や防除効果を呈する脱臭剤などを部分的に付着することによりえられる。

本発明において、脱臭剤などを部分的に付着した不織布とは、不織布の表面や中間層または表裏両層などの特定の層にのみ脱臭剤などが付着しているか、または各層における脱臭剤などの分布密度が明らかに異なるものや、あるいは不織布全体の特定部分にのみ脱臭剤が付着しているか、または明らかに付着分布の密度の異なる

さらに、脱臭剤などの付着層を不織布内部の領域に形成するばあいは、浸漬法が好ましく、脱臭剤溶液の粘度、濃度あるいは乾燥条件などを適宜選定することにより、マイグレーション作用により脱臭剤などの濃度が高まった層が容易に形成される。

かかる処理ののち不織布を乾燥し、ついで帯電化処理することによって本発明の帯電不織布がえられる。

また脱臭剤などは単独で付着させてもよいし、油剤などの通常の処理剤と混合した状態で付着させてもよい。後者のばあいは従来の製造工程がそのまま使用できるという点で有利である。

本発明で使用する帯電不織布は、たとえばポリエチレン繊維、ポリプロピレン繊維、ポリプロピレン-ポリエチレン複合繊維、精成分がポリエチレンまたはポリプロピレンで芯成分がポリエステルやポリアミドの複合繊維、あるいはそれらを難燃化処理、柔軟化処理、ハイクリンアップ処理したものなどからなる不織布があげら

れるがこれらのほかポリアミド、ポリエステル、レーヨンなどの繊維を混紡した不織布を用いてもよい。このばあい不織布を構成する全繊維中に、少なくとも40%（重量%、以下同様）以上のポリオレフィン系繊維が含まれるのが、十分な帯電効果をうるうえで好ましい。

本発明に用いる脱臭剤としてはたとえば天然植物性消臭剤や二価鉄イオン吸着剤、多価フェノール、フタロシアニン化合物、塩素化合物、カルボン酸化合物、アミン化合物、臭素化合物などの反応型の脱臭剤などがあげられ、これらの脱臭剤は単独で用いてもよく、また2種以上を混合して用いてもよい。これらの脱臭剤のなかでも反応型の脱臭剤を使うときは、臭い成分を分解するので一層好ましい。

本発明に用いる防除剤としては防カビ剤、防菌剤、殺菌剤、防虫剤あるいは殺虫剤があげられる。その具体例として二酸化塩素、ヘキサクロロフェン、クロルヘキサンなどの有機塩素系化合物、 α -プロモシナモアルデヒドなどの

有機臭素系化合物；2-(4-チアゾリル)-ベンゾイミダゾールなどのベンゾイミダゾール系化合物；ポリヘキサメチレン・バイガナジン塩酸塩、ドデシルグアニジン塩酸塩などの塩酸塩化合物などからなる防カビ剤、防菌剤、殺菌剤；ダイアジノン、マラオチン、リンデン、ディルドリン、DDT、レスメトリン、フタルスリンなどの殺虫剤、防虫剤などがあげられる。

前記脱臭剤などの付着量は不織布の密度や厚さ、付着した脱臭剤の層の厚さなどによって異なるが、優れた脱臭効果あるいは防除効果を行うためには通常1%以上であるのが好ましい。

前記脱臭剤に防糸工程または不織布作製時のカーディング工程、繊維絡合工程などにおいて使用されている油剤を適量添加してもよい。

ポリオレフィン系繊維に使用されている油剤はソルビタン化合物などのノニオン系、高級脂肪酸エステルなどのアニオン系、ラウリルトリメチルアンモニウムクロライドなどのカチオン系など種々のものがあるが、本発明においては

これらのものから選ばれた1種または2種以上のものを用いることができる。

不織布化法としては、スパンボンド法、メルトブロー法などの直接不織布化法や従来より行なわれている繊維接合法（ファイバーボンディング法）、ポイント接合法、ニードルパンチ法、水流パンチ法などの乾式法などが採用できる。

かくしてえられる不織布を帯電化処理することにより、本発明の帯電不織布がえられる。帯電化処理としては、従来より通常行なわれているコロナ放電を利用した方法が採用される。コロナ放電法は、通常コロナ電極と接地電極間に不織布ウェブを通しつつ、両電極間に高電圧を印加してコロナ放電を生ぜしめることにより、不織布を帯電せしめる方法である。

本発明の帯電不織布は、そのままあるいは補強、ブリーツ形成、ホットメルト樹脂塗布などの加工が施されたのち、所定の形状に裁断されてエアフィルター、マスク、ワイピングクロスなどとして使用される。

つぎに本発明を実施例に基づいて説明するが、本発明はかかる実施例のみに限定されるものではない。

実施例 1

メルトブロー法によるポリプロピレン繊維（平均繊維径：5 μ m以下）製ウェブを部分的に繊維接合している不織布をえた（目付：50g/ m^2 、厚さ：0.7mm）。

つぎに天然植物性消臭剤50%および二価鉄イオン吸着剤50%からなる脱臭剤の5%水溶液をスプレー量100g/ m^2 となるように調製し、えられた不織布の片面に付着させた。

この不織布を熱風循環式ドライヤー内で100℃にて5分間乾燥させ、脱臭剤の付着量が10%の脱臭剤部分的付着不織布（目付：55g/ m^2 、厚さ：0.7mm）をえた。

つぎにこの脱臭剤部分的付着不織布を直流電圧13.5kVで5秒間コロナ帯電処理させたのち、25cm \times 25cmに裁断し、筒形ダクトに取りつけ、風速10cm/秒で塵芥を含む空気を通し、0.3m

の塵粒子の捕集効率を測定したところ、捕集効率は90%であった。

なお、通気抵抗は $4.7 \text{ mmH}_2\text{O}$ であった。

つぎに $20 \text{ cm} \times 20 \text{ cm}$ に裁断した脱臭剤部分的付着シートに対し、300本のたばこの煙(副流煙)を負荷しながらえられた脱臭剤含浸シートを通過した下流側エアーの臭気をノースモーカー5名の嗅覚により以下の判定基準に基づいて判定した。

(判定基準)

◎：臭気はほとんどない

○：臭気はあるが、低下効果認められる

×：臭気が著しい

さらに脱臭剤の付着量を変更して第1表に示すような脱臭剤の付着量とした不織布についても同様に帯電効果および脱臭効果調べた。その結果を第1表に示す。

また、脱臭剤を添加したが帯電処理を行なわなかったもの、脱臭剤を添加しないで帯電処理

を行なったものについても同様に帯電効果および脱臭効果調べた。その結果を第1表に示す。

[以下空白]

第1表

試料	脱臭剤の付着量(%)	帯電処理の有無	0.3μmの塵粒子の捕集効率(%)	通気抵抗(mmH ₂ O)	臭気判定
1	0.3	有	98	4.0	○
2	0.5	有	98	4.0	○
3	1.0	有	96	4.2	◎
4	5.0	有	95	4.7	◎
5	10.0	有	90	5.0	◎
6	50.0	有	80	5.5	◎
7	0	有	98	4.0	×
8	0	有	25	4.0	×
9	1.0	有	25	4.2	○

実施例2

密構造を有するポリプロピレン-ポリエチレン複合繊維(繊維径：約0.9デニール、繊維長：64mm)製ウェブ70部(縫合部、以下同様)と粗構造を有するポリプロピレン-ポリエチレン複合繊維(繊維径：約3デニール、繊維長：64mm)製ウェブ130部とを温度140℃、圧力5kg/cm²のエンボス加熱ロールでポイント接着した不織布をえた(目付：200g/m²、厚さ：1.2mm)。

つぎに天然植物性脱臭剤50%および二価鉄イオン吸着剤50%からなる脱臭剤の10%水溶液をえられた不織布にピックアップ400%となるように調整した。

この不織布を熱風循環式ドライヤー内で130℃にて5分間乾燥させ、密構造の側に脱臭剤がマイグレーション作用により集中した、脱臭剤部分的付着不織布(目付：228g/m²、厚さ：1.4mm)をえた。

つぎにこの脱臭剤含浸不織布を直流電圧14kVで5秒間コロナ帯電処理させたのち、帯電効果

および脱臭効果について実施例1と同様の方法で測定したところ、捕集効率は80%、通気抵抗は $3.5\text{mmH}_2\text{O}$ で臭気はほとんどなかった。

さらに帯電させなかったもの、脱臭剤と油剤との混合液を使用しないで帯電させたものおよび脱臭剤と油剤との混合液を使用しないで帯電させなかったものについても上記と同様にして帯電効果および脱臭効果を測定した。その結果を第2表に示す。

[以下余白]

第 2 表

試 験 号	帯電の有無	脱臭剤の有無	0.3 μ mの塵粒子の捕集効率(%)	通気抵抗(mmH ₂ O)	脱臭効果
11	有	有	80	3.5	◎
12	有	無	86	3.0	×
13	無	有	5以下	3.5	○
14	無	無	5以下	3.0	×

実施例3

スパンボンド法によりポリプロピレン繊維（繊維径：約20 μ m）製ウェブを部分的に繊維接着している不織布をえた（目付：160g/㎡、厚さ：1.0mm）。

つぎに天然植物性消臭剤の付着量が1%のヤシ脱活性炭（100メッシュパス）100部およびポリビニルアルコール50部からなる点状プリントをえられた不織布にプリントした。

この不織布を熱風循環式ドライヤー内で130℃にて5分間乾燥させ、脱臭剤部分的付着不織布（目付：300g/㎡、厚さ：1.3mm）をえた。

つぎに直流高電圧14kVで5秒間コロナ帯電処理させたのち、帯電効果および脱臭効果について実施例1と同様の方法で測定したところ、捕集効率は78%、通気抵抗は $3.5\text{mmH}_2\text{O}$ で臭気はほとんどなかった。

さらに帯電させなかったもの、脱臭剤と油剤との混合液を使用しないで帯電させたものおよび脱臭剤と油剤との混合液を使用しないで帯電

させなかったものについても上記と同様にして帯電効果および脱臭効果を測定した。その結果を第3表に示す。

[以下余白]

第 3 表

実験 番号	脱臭剤の有無		帯電効果		脱臭 効果
	有	無	0.3 μ mの塵粒子 の捕集効率 (%)	通気抵抗 (mmH ₂ O)	
15	有	有	78	3.5	◎
16	無	有	82	1.2	×
17	有	無	5以下	3.5	○
18	無	無	5以下	1.2	×

[以下余白]

つぎに JIS Z 2911カビ抵抗性試験方法に基づいてカビ用寒天培地にアスペルギルス・ニゲル (*Aspergillus niger*) (ATCC9642) とトリコデルマ (*Trichoderma*) T-1 (ATCC9645) の2種類のカビを混合し、シャーレに注入し、防カビ・防菌剤部分的付着シートを約 2.5cm×2.5cmに裁断し、この培地上に置き、28℃にて7日間培養してその効果を顕微鏡で観察し、以下の判定基準に基づいて判定した。

(判定基準)

- 3: 試料または試験片の接種した部分に菌系の発育が認められない。
- 2: 試料または試験片の接種した部分に認められる菌系の発育部分の面積は、全面積の1/3をこえない。
- 1: 試料または試験片の接種した部分に認められる菌系の発育部分の面積は、全面積の1/3をこえる。

さらに防カビ・防菌剤の付着量を変更して第3表に示すような防カビ・防菌剤付着量とした

実施例 4

メルトフロー法によりポリプロピレン繊維 (平均繊維径: 5 μ m以下) 製ウェブを部分的に繊維接着した不織布をえた (目付: 50g/㎡、厚さ: 0.7mm)。

つぎに防カビ・防菌剤としてベンゾイミダゾール系のエチルアルコール水溶液をスプレー量 100g/㎡となるように調整し、えられた不織布の片面に付着させた。

この不織布を熱風循環式ドライヤー内で 100℃にて5分間乾燥させ、防カビ・防菌剤部分的付着不織布 (目付: 52g/㎡、厚さ: 0.7mm) をえた。

つぎにこの防カビ・防菌剤部分的付着不織布を直流高電圧14kVで5秒間コロナ帯電処理させたのち、25cm×25cmに裁断し、筒形ダクトに取り付け、風速10cm/秒で塵芥を含む空気を通し、0.3 μ mの塵粒子の捕集効率を測定したところ、捕集効率は95%であった。

なお、通気抵抗は 4.2mmH₂O であった。

不織布についても同様に帯電効果および防カビ・防菌効果を調べた。その結果を第4表に示す。

また防カビ・防菌剤を添加したが、帯電処理を行なわなかったもの、防カビ・防菌剤を添加しないで帯電処理を行なったものあるいは防カビ・防菌剤を添加しないで帯電処理を行なわなかったものについても同様にして帯電効果および防カビ・防菌効果について調べた。その結果を第4表に示す。

[以下余白]

